

主日礼拝

2021年3月28日
午前10時30分

前奏 「人よ、汝の大いなる罪を歎け」
(J.S.バッハ)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

それから、弟子たちに言われた。
「わたしについて来たい者は、自分を捨て、
自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。
(マタイによる福音書16:24)

受難節のリタニー

《受難節第6主日》

司式者：私たちは群衆と同じように深く考えないで、
不正の波にのったことがあります。これからは
もっと、私たちにものを正しく見る目と、
判断力を与えてください。

会衆：主よ、私たちがあわれみ導いてください。

司式者：群衆の「ホサナ」は すぐにまた「十字架に
つけろ」に変わったことを思いつつ、この
ろうそくを消します。(消火)

祈祷

献金

献金箱が受付に置いてあります
ので、礼拝前にお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出されたまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 マタイによる福音書 27:32～56

新約(新共同訳) P57～P58

兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた。そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその服を分け合い、そこに座って見張りをしていた。イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。折から、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられていた。そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって、言った。「神殿を打ち倒し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。神に頼っているが、神の御心ならば、今すぐ救ってもらえ。『わたしは神の子だ』と言っていたのだから。」一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスをののしった。

さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。そこに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言う者もいた。そのうちの一人が、すぐに走り寄り、海綿を取って酸いぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませようとした。ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていて多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた。百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。またそこでは、大勢の婦人たちが遠くから見守っていた。この婦人たちは、ガリラヤからイエスに従って来て世話をしていた人々である。その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼバダイの子らの母がいた。

賛美 304 「茨の冠を主にかぶせて」

To mock your reign
詞：Fred Pratt Green, 1903-

KINGSFOLD
曲：イギリス伝統旋律

1 い- ばらのかん むりを主- にかぶ- せて、
2 む- らさきの ふくをむ- りには- い で、
3 あ- しのぼうで つよくた- たきつ- づ け、

「ユ- ダヤじんのおう」と主- をあざ- ける。
▶ わ- らいもの にして主- をあざ- ける。▶
死- においや るまで主- をあざ- ける。

か- れらは- そのときし- らな- かつ た、
▶ か- れらは- そのときし- らな- かつ た、▶
か- れらは- そのときし- らな- かつ た、

そのきずが- わ- たしをい- やすこ- とを。
▶ 主が わたし- の- はじをお- おうこ- とを。
みくにはえ- い- えんにつ- づくこ- とを。

説教「十字架にとどまるイエスさま」

賛美 301 「深い傷と流れる血に」

Deep were his wounds
詞：William Johnson, 1906-

MARLEE
曲：Leland B. Sateren, 1913-

1 ふかい きずと な が- れる - 血に
2 あなど ら れて 世に - すて - られ、▶
3 わたし た ちを つ み - と死 - より

あえぎ も だえ、主 は - くる - し む。
▶ せめ と は じに 主 は - たえ - ら れ、▶
すくう た めに 主 は - 死な - れ た。

そのみ き ずこ そ が つみび と - をい や す。
▶ じゅうじ か で勝 利し、すくい と - なら れ た。
じゅうじ か の主 こ そ とこし え - のい の ち。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」

会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「フーガ 短調」 (J.S.バッハ)

司式 佐々木 悠
説教 向井 希夫牧師
奏楽 玉理 照子

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。
※賛美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。